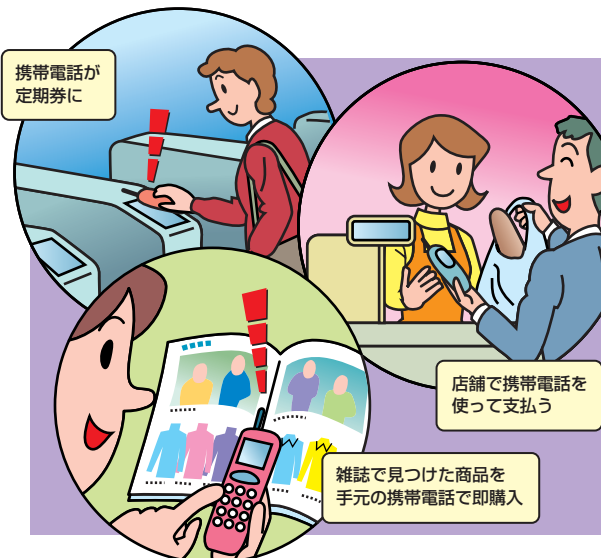


図解!

IT時代の 常識ことば

モバイルコマース



社会生活に大きな変化をもたらした携帯電話。その関連マーケットとして有望なのがモバイルコマースである。パソコンインターネットのWebサイトでショッピングを行うといった電子商取引を「Eコマース」と呼ぶのに対し、携帯電話インター

内外で注目が集まっているのである。モバイルコマースは単にパソコンが携帯電話に入れ替わったのではない。携帯電話端末はいつでもどこでも持ち歩けることから、店舗で買い物する際に携帯電話で支払うといった使い方も可能になる。

ネットを活用して商品・サービスの販売などを行うものをモバイルコマースと言う。国内の携帯電話加入者数は約8千万に達しており、パソコンよりもはるかに多くのユーザーを持つていることから、さまざまなビジネス展開の可能性が期待され、業界

つまり、①iモードなどの携帯電話インターネットでの利用、②店舗などで現金やクレジットカードの代わりに携帯電話で支払うという2つの用途がある。
モバイルコマースではユーザーが「欲しい」と思った瞬間に手元の携帯

電話で支払いができるようになる。物品を販売する事業者にとっては、商品を購入してもらう機会を拡大できるわけだ。また、ユーザー側は、店舗での支払いを携帯電話で済ませることで、かさばる小銭や何枚ものカード類を持ち歩かなくて済む。

■ICカードとの連携進む

モバイルコマースの市場は、まだ立ち上がりの段階だが、パソコン上で物品販売などを行う事業者を集めたショッピングモール「楽天」や、オークションサイト「Yahoo!オークション」などではすでに携帯電話への対応が始まっている。

携帯電話ユーザーはパソコンに比べ、若年層が多く、販売チャネルの拡大につなげられる。また、オークションサイトでは、落札通知を相手にすぐに伝えられるというメリットがあることから、親和性が高いのだ。

■携帯電話が財布代わりに

最近では携帯電話キャリア主導で、店舗などにおけるモバイルコマースも進展し始めている。

一般的な仕組みは、電子マネー、クレジットカード、キャッシュカードなどの機能を取り入れたICカー

ド搭載携帯電話と、店舗側に設置した読み取り装置で成り立っている。携帯電話端末へのICカード搭載が進み始めたのである。

NTTドコモは2004年1月にソニーとの共同出資で設立したフェリカネットワークス社によって「FeliCa(フェリカ)」と呼ばれるICチップの搭載を推進。これにより、JR東日本のICカード定期券「Suica(スイカ)」やプリペイド型の電子マネー「Edy(エディ)」などを携帯電話端末で利用できるようになる。2004年度夏頃には商用サービスがスタートする予定だ。

また、KDDIでも2003年8月にICカード搭載の携帯電話を活用した「KeyCredit(キークレジット)」の実証実験を終え、商用化に向けて準備中である。また、2004年初頭には、JR東日本のICカード定期に対応した「モバイルSuica」の実験もスタートする。このように携帯電話キャリアは次々と本格的な取り組みを進めている。数年前は夢物語であったモバイルコマースがいよいよ現実的なものになってきたのである。